

大阪損保革新懇ニュース

NO. 79
2006. 9. 26

大阪損保革新懇事務局
大阪市中央区道修町三の三の十
大阪屋道修町ビル3F 066331095

『利権同盟を変える』が世界史を変える』

ブックレット普及活動シリーズ第三弾・寄稿

品川正治さんは、戦争によって儲かる人、紛争を戦争にしたがる勢力の存在に注目している。「日本の9条が日米同盟の最大の阻害要因だ」、「国連軍に参加する普通の国」論ということ、アメリカの軍産複合体の中核と日本の経済界の中核の論理構造は共通している。それというのも、成長の呪縛にとらえられ、お金と利権万能の経済社会を待望するという一方で、同じ利権グループに属しているからだ。品川さんは、戦後改革とその後のもつとよこせ」という税制・財政でつくられた利益集団で、社会のみんなに責任を負う市民階級は形成されていないという。

なるほど、そうであってみれば、何があっても変更されることがない政策の意味が理解できる。金融保険改革の過程でバブル経済が政策的につくられ、改革もバブルも破綻し、それにもかかわらず、今いっそうの構造改革が進められている。保険についてみると、バブル経済に合流し、結果として巨額の逆ザヤをかかえ、しかもなお、自由化路線が続いている。

1994年10月に、「日本国政府およびアメリカ合衆国政府による保険に関する措置」が合意された。その内容は日本側が、いつまでに、何を、どのように、どの程度自由化し、門戸開放するか、数値目標を示し、その進行状況をアメリカが点検するというものである。ところが、日本には無条件の規制緩和を求めながら、アメリカが約束したのは「州別規制の調和促進」であり、規制緩和ではない。このように、現代の著しい不平等条約が結ばれ、日本側も合意しているのも、日米をつなぐ利権同盟であれば理解できる。「社会の安全を守り、リスクを補償する」保険の社会的責任を果たすよりは、不平等条約に乗ることが金融マーケットでの覇権拡大につながるかと判断してのことだ。銀行も証券会社も同様だ。しかし、最大の効率を求めたはずが、会社をつぶし、国民と契約者に犠牲を負わせ、最低の結果をもたらした。それがまた、アメリカにとっては絶好のビジネスチャンスとなった。

青山学院大学経済学部教授 本間照光(元共栄火災)

96年11月には、金融自由化を徹底させる「日本版金融ビッグバン」が打ち出され、翌、12月には日米保険合意が成立する。そして、97年から日本の保険会社が次々と破綻していくが、一連の流れは変更されることがない。「9条を守りきれば、世界史が変わる」「アメリカの考えである日米同盟というのは消滅せざるを得ない」と、品川さんは言う。

経済活動とくらし、それと平和の問題は別のところにはない。損害保険産業を担う人々から発せられた。この小さなブックレットからは、ふだんの仕事で、日本国憲法を守り、平和をつくり出す想像力と構想力の源であることが伝わってくる。これが一粒の種となり、各方面で多様な実を結んでいくことを期待したい。

革新懇だより

香川損保革新懇総会に松浦世話人が講演！

九月二三日(土)開催された香川損保革新懇総会に大阪損保革新懇に講師を要請され、松浦章世話人が「損保の今と未来について」講演し、交流を深めました。

日新職場革新懇のつどいを近日開催予定！

日新職場革新懇は十月二〇日(金)にアイクルで損保革新懇総会を目前にして第十三回革新懇のつどいを開催します。

大阪革新懇主催「講演と文化の夕べ」

日時 十二月十五日(金) 午後六時半開会
場所 エル大阪(大阪府労働センター天神橋)
講師 品川正治氏
演題 『平和憲法にそった脱アメリカ型日本国の再構築を』

訂正とお詫び

『ブックレット』35ページの訂正

B表社名の「同和」は「ニッセイ同和」に、
従業員数4368名対比107・4%は

4505名対比97・0%に訂正します。

前者にニッセイ損保従業員437名を加算すべきでした。
訂正するとともにお詫びいたします。

大阪損保革新懇第九回定期総会日程決まる

「講演と構成劇」企画

●日時 十一月七日(火) 午後六時三〇分開会

●場所 大阪府商工会館七階講堂

●講師 石川康宏氏(神戸女学院大学教授)

詳細は追ってお知らせします。